

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	上田市	
施 設 名	上田市交流文化芸術センター（サントミュージゼ）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	32,776	(千円)
公 演 事 業	23,787	(千円)
人 材 養 成 事 業	1,179	(千円)
普 及 啓 発 事 業	7,810	(千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レジデント・アーティスト 「岩井秀人」(演劇2年目) による滞在製作型公演 ※	令和4年6月13日 ～令和4年7月4日	演目：『ワレワレのモロモロ 2022』 構成・演出・脚色：岩井秀人	目標値	210
		大スタジオ		実績値	152
2	レジデント・アーティストに よる リサイタル・シリーズ (全6公演)	令和4年5月14日 ～令和5年3月11日	出演：金子三勇士、酒井有彩、仲道郁代、 神谷未穂、望月優芽子、長谷川陽子、 松本和将、福川伸陽、新居由佳梨	目標値	1,200
		小ホール		実績値	1562
3	群馬交響楽団 上田定期演奏 会 -2022 秋- パスカル・ヴェロ指揮 オール・フランス・プログラ ム	令和4年9月4日	指揮：パスカル・ヴェロ 独奏：辻彩奈(ヴァイオリン)	目標値	800
		大ホール		実績値	372
4	群馬交響楽団 上田定期演奏 会 -2023 春- 大植英次 × 小曾根真	令和5年3月26日	指揮：大植英次 独奏：小曾根真(ピアノ)	目標値	800
		大ホール		実績値	725
5	NHK 交響楽団 「ニューイヤ ーコンサート 2023」	令和5年1月9日	指揮：沼尻竜典 独奏：砂川涼子(ソプラノ) 宮里直樹(テノール)	目標値	1,000
		大ホール		実績値	686
6	Chopin The Series #Season2 (全3公演)	令和4年8月20日・ 11月25日・12月17日	出演・お話：高橋多佳子	目標値	600
		小ホール		実績値	727
7	劇場間連携事業 マームとジプシー公演 『cocoon』 ※	令和4年7月23・24日	原作：今日マチ子 作・演出：藤田貴大 音楽：原田郁子	目標値	320
		小ホール		実績値	209
8	島地保武・酒井はな Altneu コンテンポラリーダンス 公演事業	令和4年10月1日・2日	演目：『杜子春-Toshishun-』 出演：Altneu・岡本優 原作：芥川龍之介 音楽：熊地勇太	目標値	400
		小ホール		実績値	236
9	松竹歌舞伎 夏季舞踊 上田公演	令和4年7月27日	出演：中村芝翫、中村橋之助 中村福之助、中村歌之助、中村松江	目標値	930
		大ホール		実績値	766
10	『宝飾時計』	令和5年2月25・26日	作・演出：根本宗子 出演：高畑充希、成 田凌、小池栄子、伊藤万理華、池津祥子、 後藤剛範、小日向星一、八十田勇一	目標値	2,000
		大ホール		実績値	2621
11	バルコプロデュース 2022 『桜文』 ※	令和4年10月8日	作：秋之桜子 演出：寺十吾	目標値	1,800
		大ホール		実績値	851

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 大学や企業と連携した研修プログラム	令和4年4月21日 ～令和4年9月4日	講師：セレノグラフィカ 星乃もと子 上田市交流文化芸術センター 舞台スタッフ	目標値	延べ210 (7回)
		大ホール・大スタジオ		実績値	延べ126 (7回)
2	東信・新進演奏家リサイタル	①令和4年8月11日 ②令和5年1月22日	出演：①宮入柚子（ピアノ） ②小林公哉（打楽器） 小林純菜（サクソフォン）	目標値	延べ400 (2公演)
		小ホール		実績値	延べ416 (2公演)
3	新国立劇場との連携による「バレエ・特別レッスン」	令和4年11月19日 ～令和4年11月20日	講師：菅野 英男 ピアノ：圓井晶子	目標値	延べ80 (4回)
		大スタジオ		実績値	延べ36 (4回)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アーティスト・イン・レジデンス 芸術家ふれあい事業 (音楽)	令和4年6月13日 ～令和5年2月4日	酒井有彩、神谷未穂/望月優芽子 長谷川陽子/松本和将・田中英明 福川伸陽/大野真由子・宇根美沙恵	目標値	3,020 (公演: 920、ワークショップ等:2,100)
		市内小学校 22校 ほか ※		実績値	2,150 (公演: 690、ワークショップ:1,460)
2	《平日マチネ》 ワンコイン・コンサート・シリーズ (全6公演)	令和4年4月13日 ～令和5年2月9日	加藤文枝/北端祥人、松田弦、泉真由/ 松山玲奈、早稲田桜子/早稲田眞理 實川風、佐藤卓史	目標値	1,800 (公演: 1,680、関連事業 120)
		小ホールほか		実績値	1,905 (公演: 1,539、関連事業 366)
3	マチとつながるプロジェクト① 観光×ブラスバンド WS&ライブ	令和4年11月5日 ～令和4年11月6日	出演・講師: BLACK BOTTOM BRASS BAND	目標値	280 (公演: 250、WS参加者 30)
		小ホール		実績値	156 (公演: 138、WS参加者 18)
4	マチとつながるプロジェクト② サントミューゼ×犀の角 共同企画 ※	令和4年12月22日 ～令和4年12月25日	演目: シナノイルカ、地中を泳ぐ 作: 高山さなえ 脚色・演出: 土田英生 出演: 石丸奈菜美、高橋明日香ほか	目標値	入場者:80 参加者:120
		犀の角		実績値	入場者:40 出演者:12
5	高校生と創る 『実験的演劇工房 (多田淳之介編)』 ※	令和4年11月30日 ～令和4年12月11日	出演: 上田市内高校演劇班 14名 演出・監修: 指導: 多田淳之介	目標値	入場者:120 参加者:200
		大スタジオ		実績値	入場者:97 参加者:154
6	劇場間共同制作事業/ 日伊共同プロジェクト 音楽とダンスの即興戯曲 『KITCHEN』	令和4年8月21日	出演: 高瀬アキ、Daniele D' agaro aiara de Santi、Annalisa Ponton ダンス: 垣尾優、糸瀬公二 ほか	目標値	入場者:70 参加者:30
		大スタジオ		実績値	入場者:93 参加者:10

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>上田市交流文化芸術センターでは施設が有する機能や専門性を活かしつつ、地域を中心にさまざまな機関と連携して、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を推進している。</p>
<p>公演事業</p> <p>国内外で活躍するトップクラスの演奏家のリサイタル、準フランチャイズ・オーケストラによる定期的なコンサート、劇団やダンス・カンパニー等と提携した舞台公演を実施。あわせて、大規模演劇等、多彩で良質な作品を鑑賞する機会を広く提供。令和4年度事業については、関連プログラムの内容変更等の軽微な変更以外は、おおむね当初の計画通りに事業を進めることができた。</p>
<p>人材養成事業</p> <p>大学や企業、行政職員ほか広く一般を対象として、文化政策や施設運営に関する講座やワークショップ等を実施。外部の劇場や機関との連携によるバレエレッスンや地域の新進演奏家によるリサイタルなど、ホール特有の強みとネットワークを活用。令和4年度事業については、全て当初の計画通りに実施できた。</p>
<p>普及啓発事業</p> <p>「芸術家ふれあい事業」と称し、音楽や演劇・ダンスの第一線で活躍するアーティストが学校や公民館等を訪問するコンサート、市民参加型のワークショップや創作活動等を実施。公演事業と連動させることで、体験・創作と鑑賞の循環を促す。令和4年度事業については、一部演劇公演において、新型コロナウイルス感染症の影響で事業内容の変更を余儀なくされたが、おおむね当初の計画通りに事業を進めることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>○文化的意義</p> <p>新国立劇場や群馬交響楽団との提携によって、地域のニーズに応えた国内の優れた舞台芸術を鑑賞できる機会を継続的に提供している。</p>
<p>○社会的意義</p> <p>上田市教育委員会と連携し、アウトリーチ事業「クラスコンサート」を実施。間近でプロの芸術家の実演に触れることにより児童の感性や想像力、人間性やコミュニケーション能力を育む事業として、令和4年度は上田市内の小学校全25校で46回のコンサートを実施。1,460名の児童に対してクラシック音楽の生演奏を届けることができた。</p> <p>また『実験的演劇工房』では、高校生が一つの作品創りに取り組むことで、参加者同士のコミュニケーションが生まれ、学校や学年を超えた交流が育まれた。演劇を通じてさまざまな人と出会い、表現活動を行うことの楽しさや素晴らしさを感じてもらう機会として、社会的役割を果たしている。</p>
<p>○経済的意義</p> <p>観客に対するアンケート調査を継続的に全主催事業で実施する他、外部の調査機関に開館以降の「事業・運営評価調査」を委託。来場者アンケートに加え、アウトリーチ担当教員、貸館利用者に対するグループインタビューや、経済波及効果及びパブリシティ効果の分析が行われ、その中で「地域の特性や市民ニーズにあわせた事業や運営が行われ、文化芸術に興味や関心を持ち、積極的に関わる市民が増加していることが明らかになった」と報告された。また「経済波及効果は約50億円に達するなど、地域経済の活性化に寄与している」と評価された。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

目標①	公演事業の入場率の安定
指 標	入場者数 平均 80%以上
実 績	入場者数 平均 64.7% (未達成)

目標②	観客満足度の向上
指 標	アンケート 5 点満点中 平均 4.0 以上
実 績	アンケート 5 点満点中 平均 4.0 (達成)

目標③	自主企画数の確保
指 標	年間 7 公演以上
実 績	年間 10 公演 (達成)

目標④	交流プログラム開催数の拡大
指 標	年間 34 回以上
実 績	年間 13 回 (未達成)

目標⑤	交流プログラム参加者数の拡大
指 標	年間 850 人以上
実 績	年間 546 人 (未達成)

目標⑥	交流プログラム観客満足度の向上
指 標	アンケート 5 点満点中 平均 4.0 以上
実 績	アンケート 5 点満点中 平均 4.3 (達成)

人材養成事業 普及啓発事業

目標④	交流プログラム開催数の拡大
指 標	年間 70 回以上
実 績	年間 63 回 (未達成)

目標⑤	交流プログラム参加者数の拡大
指 標	年間 2,300 人以上
実 績	年間 2,457 人 (達成)

目標⑥	交流プログラム観客満足度の向上
指 標	アンケート 5 点満点中 平均 4.0 以上
実 績	アンケート 5 点満点中 平均 4.4 (達成)

目標⑦	小学校教師の満足度向上 ※普及啓発事業のみ
指 標	アンケート 5 点満点中 平均 4.0 以上
実 績	アンケート 5 点満点中 平均 4.8 (達成)

目標⑤⑥の「交流プログラムの参加者数拡大」と「観客満足度の向上」を達成したことにより、公演事業と人材養成事業、普及啓発事業が連動し、多様な実演芸術を楽しむ劇場として観客の興味・関心を喚起。公演事業の作品鑑賞を深めることにつながった。

具体的には、公演前に実施する「アナリーゼワークショップ」に参加したことで理解が深まり、より深く演奏会を楽しむことができたというコメントや、新国立劇場との連携による「バレエ・特別レッスン」参加者からは、バレエダンサーを身近に感じることができ、将来の目標達成への思いが強くなったという声を聞くことができた。また、アウトリーチプログラム「クラスコンサート」で訪問した学校の先生たちは内容の充実を評価され、継続実施を希望するとともに、この活動がきっかけとなり、劇場で開催されたリサイタルに足を運んだ児童がいたというエピソードを伺った。

一方で目標①の「公演事業の入場率の安定」が未達成となったことについては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一旦劇場から離れた観客の呼び戻しが進んでいなかったことや、3回のオーケストラ公演のうち2公演が目標値を大きく下回ったことが要因と考えられる。

次年度以降は再び劇場に足を運んでいただけるよう、施設としての安心、安全を確保しつつ、より魅力ある公演事業のラインナップを検討したい。さらに、これまで同様、公演事業と連動させた普及啓発事業を推進することで、市民自らの創造的な活動を促し、地域の文化振興に貢献する。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

4組のアーティストが一定期間地域に滞在し、様々な芸術活動を行う「芸術家ふれあい事業」では、市内全25校の小学校と9つの公民館でアウトリーチ活動を行うための適切な実施回数と滞在期間を設定している。具体的には、単に効率性を求めた設定ではなく、アーティストが最大限のパフォーマンスを発揮できるよう適切なスケジュールを組み立て、それが目標達成のためのアウトプットに繋がっていると考えている。

また演劇・ダンス事業においても稽古期間を含めた適切な事業期間を設定し、計画通りに進んだと評価する。

※以下、新型コロナウイルス感染症の影響があった事業

- ▶ レジデント・アーティスト「岩井秀人」(演劇2年目)による滞在制作型公演
関係者が現地入りの際の検査で陽性反応が確認されたため、稽古日程が変更となった。
- ▶ 劇場間連携事業マームとジプシー公演『cocoon』
上田公演に先立って行われた東京公演が中止となったため、上田での稽古日程を増やすことになった。
- ▶ マチとつながるプロジェクト② サントミュージゼ×犀の角共同企画
関係者に陽性反応が確認されたため、関連企画が中止。出演者を変更して実施した。
- ▶ 高校生と創る『実験的演劇工房(多田淳之介編)』
関係者に陽性反応が確認されたため、現地での稽古からオンライン会議システムでの稽古に変更した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

事業費の決算額と要望額の比率(決算額/要望額)が80%を下回った公演が11事業中3事業あり、当初の積算額との開きが目立つ結果となった。特に、パルコプロデュース2022『桜文』については0.68%と、大きく下回った。

要因としては、出演者変更に伴う出演料の減少や、公演回数の変更、新型コロナウイルス感染症の影響により滞在日程が短縮となったことなどが考えられるが、今後はより精度を上げた積算をするために、新作公演などで経費の積算が難しい場合でも、過去の資料などを基に、可能な限り増減が生じないように留意する。

人材養成事業

人材養成事業「うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 基礎講座 & 大学や企業と連携した研修プログラム」においては、入場料収入を見込んでいないため、適切な事業費となるよう支出の抑制に努めた。要望比も100.18%と計画通り進んだと評価する。新国立劇場との連携による「バレエ・特別レッスン」については、事業費の決算額と要望額の比率(決算額/要望額)が80%を下回っており、適切な事業費の積算に留意する必要があると考える。

普及啓発事業

要望比が80%を下回った事業が6事業中2事業と、当初計画と乖離がみられた。これは新型コロナウイルス感染症の影響により一部関連事業の中止や変更を余儀なくされた影響が大きい。『マチとつながるプロジェクト① ブラスバンドWS & ライブ』については、要望比が51.66%と、支出が計画を大きく下回った。

要因としては、予定されていた「紅葉まつり」でのステージ演奏の出演枠が確保できず、それらの計画変更に伴う支出の減少が影響した。

今後、各事業においては、適切な事業費を精度の高い積算で計上するよう留意する。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

基本理念の根底に「育成」を掲げる当館は、人材養成事業はもとより、公演事業及び普及啓発事業においても地域との好循環を目指し、それぞれの事業を関連付けて展開することで地域の文化拠点として「人が育ち、まちが育つ」ことを促している。以下、プロデュース事業の中でも「育成」を強く意図した企画を中心に分析し、自己評価する。

○劇場から地域へ、地域から劇場へ―「芸術家ふれあい事業」

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら「芸術家ふれあい事業」を市内9つの地域で展開した。市内小学校で5年生を対象とする「クラスコンサート」は、全25校で実施することができた。コロナ対策としてソーシャルディスタンスが確保しやすい体育館を会場とする学校が多かったが、幾つかは音楽室で、演奏家と近い距離でコミュニケーションを取りながら行うことで、子どもたちにとって印象深い音楽体験の場となったであろう。

公民館等を会場とする「ふれあいコンサート」は市内9箇所で開催。演奏家にとってもプログラム内容や進行上の配慮が必要な場面もあったが、親子連れや近隣住民など幅広い来場者を迎えた。身近なところでコンサートを楽しみ、演奏家のファンとなって、後にサントミュージゼでのリサイタルに足を運ぶ観客も少なからず見られた。

○アーティストの継続的な関わり(レジデンス)で、創造と育成の拠点となる

演劇・ダンス事業では、アーティストの滞在を軸にした活動を数年にわたり段階的に取り組むこととしており、市民参加型公演やオリジナル作品の創作など、創造型劇場としての当館の特色を打ち出してきた。一定期間、上田に滞在し、市民と交流しながらワークショップや作品制作を行うことで、アーティストの創造意欲と活動の成熟を支えるとともに、市民の能動的な参加機会の提供と観客育成にもつながっている。

あわせて、劇場スタッフの制作スキルの向上がはかられ、事業運営の充実とともに当館利用者に対するサービスの質やパフォーマンスの向上にも資するものとする。

○高校生が空間創造の可能性をひらく『実験的演劇工房』

「創造と創作の場」である大スタジオを用い、プロの演出家を招いて市内の高等学校演劇班の生徒が自分たちで作品を創り出していく『実験的演劇工房』。同世代が集い約2週間、日常の出来事や悩みなどを題材にストーリーを考え、全員で出演し、テクニカルスタッフも担って発表まで行う本事業は、彼らの創造性を鍛え、公演を実現する達成感をもたらすことになる。アーティストや劇場スタッフと交流し、自由な発想で大スタジオを活用した経験者の中には、舞台芸術系の大学や企業に勤める人もいて、未来の舞台芸術を支える人材の育成にもつながっている。

○準フランチャイズ・オーケストラとの多彩な取組み

プロの常設オーケストラがない長野県だが、当館では開設当初より、群馬県高崎市を本拠地とする群馬交響楽団を招いて準フランチャイズとして提携、令和元年度からは「上田定期演奏会」を毎年2回開催している(令和2年度はコロナの影響により1回実施)。提携により公演だけでなく関連プログラムも充実しており、本年度は楽団員による室内楽演奏会と、指揮者やソリストが楽曲の魅力やプログラム構成を語るアナリーゼワークショップを行った。

こうした取組みを継続的に実施することで、定期演奏会に対する理解と期待が高まるとともに、群馬交響楽団そのものに対する愛着が増してきたと感じられる。それは来場者アンケートの記述にも表れており、毎回の公演内容を比べてのコメントや、楽団員の演奏に対するエール、高崎と上田の両方を聴いたうえでの感想なども寄せられるようになった。今後も、準フランチャイズとしての強みを活かし、両方でさまざまな企画の可能性を検討しながら事業を充実させ、オーケストラも聴衆も共に育っていくような関係を培っていきたい。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○東信地域の音楽家を発掘・育成するリサイタル

地域で活動する新進演奏家の発掘と育成を目的とし、令和3年に着手した「東信・新進演奏家リサイタル」は、書類と音源による第1次選考と一般公開による第2次選考を経て、翌年、最優秀者にソロリサイタルを、優秀者には合同リサイタルを小ホールで行う機会を提供するものである。本年度は8月に最優秀者のピアノ・リサイタルを、1月に優秀者2名によるサクソとパーカッションの合同リサイタルを開催した。プログラム内容へのアドバイスや広報、リサイタルの運営サポートを行うことで、いずれも充実した内容となり、出演者及び来場者の満足度も高く、地域のアーティストを育成する場としての機能を果たせたものとする。リサイタルからしばらく経ち、出演アーティストの一人が自ら小ホールを借りて、新たな企画を提案してきたことも、その証左であろう。

○民間劇場との共同企画で、地域の物語をつくる

海野町商店街にある民間劇場「犀の角」とは定期的に共同企画を実現しており、コロナ禍の中でも柔軟で適切な対応をとりながら、地域で演劇活動に携わる人たちが参加する事業を行ってきた。近年は上田や近隣地域の歴史や伝承する民話などに取材した脚本づくりに挑むなど、地元で劇作に励む方々の創作活動を支援する役割も担っている。今回は、上田でクジラの化石が発見されたことにヒントを得た劇作家・高山さなえが創作した戯曲のリーディング公演を実施した。これまで当館事業に携わった演出家・土田英生を招き、彼が主宰する劇団 MONO の俳優と共に市民が出演する公演となり、連続性ある取り組みで、犀の角としても地域の演劇創造拠点として存在感を示すことになったと思う。

○劇場間連携により同時代アーティストの快作と出会う

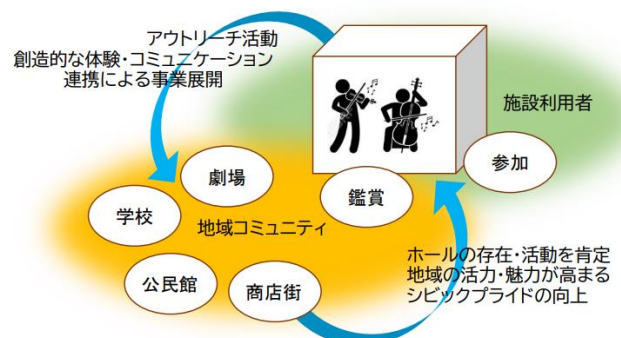
レジデント事業で市民参加プログラムに取り組んできたカンパニーやアーティスト（マームとジプシー、島地保武・酒井はな Altneu）の代表作の公演を、他のホールとの連携により実現。市民参加プログラムに参加していた方々をはじめ、演劇やダンスに関心ある観客層を集め、大きな反響が寄せられた。特にマームとジプシー公演『cocoon』（2015年、読売演劇大賞受賞）は、令和2年度に当館が幹事館となり全国の劇場との共同制作にて計画していたところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い延期となったもので、来場者アンケートやSNSコメントからも、待望の公演であったことが伺える。上田及び近隣地域の芸術文化振興を担うホールとして、牽引役を果たせたと考えている。

○公演事業のシリーズ化で誘客と観客育成

平日お昼の45分、気軽に楽しめる「ワンコイン・コンサート・シリーズ」は、ホールに足を運び、音楽と出会うきっかけとして機能しており、上田地域定住自立圏でのコンサートも含め、いずれも安定した集客を維持している。ショパンをテーマとする『Chopin The Series』も前年度に続くシーズン2となったが人気が高く、ピアニスト高橋多佳子のファン層も厚みを増しており、一人の作曲家に注目するシリーズとして今後の展開が期待できる。

○新国立劇場との連携による「バレエ・特別レッスン」

令和3年12月、新国立劇場との連携・協力に関する協定を締結し、同バレエ団による公演を行ったことから、本年度は団員による特別レッスンを企画、実施した。バレエ教室が多く、子どもたちを含むバレエ人口が多い上田で、第一線で活躍するダンサーから直接、指導を受けられる貴重な機会となった。引き続きの実施を望む声も、多く寄せられている。



(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

組織活動の持続的な発展については、市政における当館及び事業の位置づけと施策との連動、内外のネットワークや支援者・賛同者の存在が大きく影響すると考えられ、そうした観点より分析、自己評価する。

○事業運営や研修を通じた専門性の獲得

当館は市直営の施設だが、音楽、演劇・ダンスの企画制作に経験豊富な専門人材を置き、舞台技術スタッフを市職員として雇用している。一般行政職員は定期的な異動があるが、共に現場での経験を積むことで知識とスキルを身につけ、事業を円滑に運営している。特に、レジデント・アーティストやレジデント・カンパニーによる事業では、アーティストと直接やりとりしながら企画を練り上げていく中で創作の意図やプログラム構成のねらいを知り、小学校などアウトリーチ活動の受け入れ先やワークショップ参加者等との調整を重ねながら、地域における当館の役割や存在価値を認識している。

あわせて、企画制作や舞台技術に携わる人材育成を目的とする研修会にスタッフを派遣し、専門性を磨くことで持続的なホール運営が可能となるよう組織強化に取り組んでいる。例：地域創造「ステージ・ラボ川崎セッション」(R4.2.)

○他領域における施策の連動、市民がかかわる運営体制

異動により人材が循環することで、文化行政における要の施設としての存在感が浸透するとともに、まちづくりや観光、教育、福祉などの領域で文化を活かす施策や、当館の事業と連動する取り組みを進めやすいという利点がある。さらに地域プログラムなどの運営においても、他部署に異動した職員の助力を得られることは大きい。毎年春に行われる新入職員研修には、施設見学と講義、ダンス・ワークショップが組み込まれ、同期のコミュニケーションを促す一助ともなっている。

令和3年度からは地元文化関係者と市民を中心とする運営協議会を組織し、事業内容や館運営にかかわる諸課題について意見を聴取する場を設けている。また、ホールプログラムのフロントを担うレセプションистは定期的に市民から公募、選考し、専門家による研修を受けて業務にあたっている。さまざまな立場から館運営にかかわる市民を広げていくことも、持続性を担保するひとつの鍵であるとする。

○市内外のネットワークによる継続的な事業展開

音楽、演劇・ダンスの企画制作にあたっては、アーティストやカンパニー、マネジメント会社はもとより、ホール間のネットワークを活かした協働、連携により事業を推進している。準フランチャイズとして年2回の定期演奏会を実施している群馬交響楽団や、令和3年に運営・協力に関する協定を結んだ新国立劇場、姉妹都市である豊岡市など、外部機関との良好な関係による事業展開が図られている。

地元においても、芸術家ふれあい事業で訪れる小学校や公民館、劇場・犀の角との恒常的なつながりができており、地域プログラム推進の強力なパートナーとして定着している。



○安定的な運営を支える財源の拡大

当館はコロナ前まで、入場料や貸館などの事業収入、補助金や寄付金などの外部資金が、事業費の財源の30%以上を占めていたが、令和元年に実施した「上田市交流文化芸術センター運営検証委員会」にて、近隣他館と比較した利用料の検討を含め健全な施設運営のための財源確保が指摘されていた。それを踏まえて上田市では、およそ半年の周知期間をもって、令和5年4月より施設使用料を改定。あわせて、従来ワンコインで開催していたマシネの料金を1,000円に引き上げ、60分に時間を延長して内容を充実させるなど、料金の見直しに利用者及び観客からの理解を得ているところである。また、アウトリーチ活動ほか普及啓発事業に賛同する法人等からの寄付を募る「サントミュージアパートナーズ」は現在16社だが、引き続き地元企業を中心に広く呼びかけ、支援の輪の拡大に努めていきたい。